

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1471300382	事業の開始年月日	平成17年11月1日
		指定年月日	平成17年11月1日
法人名	株式会社 悠悠苑		
事業所名	グループホーム悠悠苑 大磯事業所		
所在地	(〒255-0001) 神奈川県中郡大磯町高麗2-19-18		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和4年1月16日	評価結果 市町村受理日	令和5年4月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

介護理念である『私たちは、利用者様が受たい介護サービスを実践し、みんなが安心して幸せに暮らせるホームを築きます。』は、全職員で構築した。理念に基づいて、常に入居者様の立場に立ち、個性や人生を重んじ、安心と尊厳のある生活を守ることに努めている。入居者様を生活の主体者として捉え、残された能力を最大限に発揮し、自信をもって自立した生活が送れるようにすることをサービスの基本としている。地域とは、双方の行事や活動に積極的に参加し交流を図り、地域の一員として社会生活が営めるように努めている。ボランティアは、傾聴や演奏等の多種多様な協力をいただいている。日常的には、散歩や外気浴に出かけ、その他には、希望や時季にあった企画をたて、外出する機会を作るようにしている。社内研修や、社外研修・実習を計画し、学習する機会の確保に努め、豊かな人間性・専門的知識・技術の研鑽に努めている。社内外部の介護従事者を対象にしたセミナー『湘南かいご道場』を主催（月1回）。しかし、コロナ禍のため上記地域行事の参加やボランティアの受け入れは控えている。社内研修について、対面と動画配信により全職員が受講している。消防署の協力を得て、防災訓練は年4回、普通救命講習は年2回実施。医療連携体制を整えており、早期から医療ニーズの対応に努め、急性期24時間に対応している。看取り介護の意向には、可能な限り尊厳と安楽を保ち、安らかな最期を迎えられるよう、医師との連携を図り、積極的な支援に取り組んでいる。新型コロナワクチン追加接種について、2022年1月19日、嘱託医による訪問接種を希望する職員に行った。PCR検査は、全職員を対象に週1回のペースで行っている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年2月16日	評価機関 評価決定日	令和4年4月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所はJR東海道線「平塚」駅北口から「松岩寺」行きのバス乗車、「花水橋」バス停下車徒歩1分、バス通りから1本入った静かな住宅地にあり、地域密着型通所介護を併設しています。桜やツツジの名所でもあり「かながわ景勝50選」のひとつとなっている「湘南平」を控え、高麗山、花水川など自然豊かな環境のなかにあるグループホームです。

<優れている点>

祭りやオープンガーデン、餅つき・流しそうめん、文化祭、どんど焼き、節分祭など地域の行事に積極的に参加しています。悠遊まつりをはじめ、七夕飾りづくり、RUN伴（認知症啓発）、ハロウィンスタンプラリー、ひょうたんランタンワークショップ、しめ縄かざりワークショップなど多彩なイベントを主催し、地域に根ざした活動を活発に展開しています。またプロフェッショナル、根拠が言える介護職員をめざした勉強会「湘南かいご道場」を開催し、介護技術や知識の普及に努めています。

<工夫している点>

業務の効率化に向けて、整理整頓、PDCAサイクル、職員増員の時間帯を設け介護負担を軽減するなどの工夫をして職場環境の整備に努めています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム悠悠苑 大磯事業所
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	朝礼時に管理者・職員は唱和をし、理念の確認を行っている。会議等で理解し実践できているかの確認をしている。平成24年10月から5ヶ月間かけ全職員参加のもと新しい理念の構築に取り組み、平成25年3月から実施している。課題は、理念を意識した実践をすること、浸透し続けること。	理念は「利用者様が受けたい介護を…」を玄関や事務所、休憩室に掲げています。理念が達成できているかをカンファレンス、会議、ケアプラン評価で確認しています。各フロアで月間目標を設定し、毎月振り返りを行い、達成度を評価しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入。例年、双方の行事や活動に積極的に参加し合い、交流を図っている。多種多様な地域ボランティアの協力をいただいている。毎年10月開催の悠遊まつりは、地域の年間計画に予定していただいている。地域店舗での買い物や配達を通し、コミュニケーションを図っている。コロナ禍のため上記ほぼ自粛。	高麗自治会に加入し地域の祭りやオープンガーデン、餅つき、文化祭などに参加しています。事業所主催で悠遊まつり、RUN伴、ワークショップなどを開いて地域の人と交流しています。介護のスペシャリストをめざす「湘南かいご道場」を開講し、介護技術や知識を学ぶ場を提供しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	例年、自治会・運営推進会議・地域行事では、事業内容や認知症の説明・理解を継続的に行っている。民生委員等の見学や、実習の受け入れを積極的に行っている。平成26年度から介護技術の向上を目的に始めた『湘南かいご道場』は、今年度、地域住民を対象にした介護教室等を展開しているが、コロナ禍のため上記ほぼ自粛。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	例年、事業所での取り組みや、現況の開示をし意見交換をしている。参加者の要望・助言等を基に、サービス向上を図っている。災害時の対応は、地域の方の相互協力が必要と考えている為、運営推進会議を活かして話し合っている。コロナ禍のためほぼ自粛。繋がりは減少している。	運営推進会議は隔月開催し家族、自治会会長、民生委員、役場・地域包括支援センター職員、管理者、介護主任、ケアマネジャー、看護師が参加しています。事業所からの要望「災害時の避難先へ行く坂道に手すりを」が実現されています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	例年、変更・事故等の報告。徘徊や感染症等の解決困難な事例や、不明点を相談し、助言を求めている。社会資源を活用するにあたり、資料や情報を早期に収集し、資源相互間の調整を図るよう努めている。実地指導の指摘内容を改善し、質の向上に努めている。市町村が実施する研修に積極的に参加をしている。運営推進会議において、助言・指導をいただいている。コロナ禍のためほぼ自粛。	役場や地域包括支援センターには適宜連絡し連携を図るよう努めています。新型コロナウイルス感染防止や行方不明事故の対応についてのアドバイスや、他グループホームからの転居者に関する相談をしています。グループホーム連絡会に参加し意見交換・情報収集をしています。「RUN伴」を企画・実施しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての研修を受講することや、職員同士で共有することで拘束のないケアに取り組んでいる。身体拘束がもたらす身体的・精神的・社会的弊害を正しく認識し、入居者の問題点をしっかり把握することに努めている。玄関等の施錠はせず自由に行き来できる環境にある。	カンファレンス、会議、研修、面談などで職員の身体拘束の理解把握に取り組んでいます。管理者、介護主任、計画作成担当者、看護師が参加して3ヶ月に1度、必要時は随時「身体拘束廃止委員会」を開催しています。フロアごとに月間目標を定め、会議で達成度を評価しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	内・外部研修やカンファレンスで学習し、防止に努めている。日常的に職員間で都度注意を払うように努めている。	「スピーチロック0」を目指し各フロアで月間目標を検討し、虐待防止に広げて話し合いをしています。職員同士で疲労やストレスがケアに影響していないかを確認し、フォローし合うように努めています。適切なケアが行われていない場合は面談で解決を図っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	講師を招き、社内研修を実施している。最近では、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度を必要とする入居者様や問い合わせが増えてきたので、継続して研修の機会をもちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	事業内容や方針等を十分に説明した上で、契約内容を分かり易く丁寧に説明をするようにしている。不安や疑問点を解消し、理解・納得された後、入所されている。解約・改定時も同様である。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	気軽に意見等が言える環境・関係作りに努めている。苦情窓口や意見箱を設置し、運営に反映させている。代理人の面会時等に、個別に現状の報告をしたり、意見や要望を訊いたりしている。検討事案は、会議で検討し業務改善に活かしている。	家族の意見は面会、電話、便り、アンケート、意見箱などで聞いています。日頃からコミュニケーションを図り、意見を言いやすい雰囲気づくりに努めています。意見・要望はカンファレンスや会議で検討し、「同性介助」などの要望を反映しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な会議や日常のカンファレンスの中で機会を設けている。職員との個別面談を必要時実施している。問題点を把握し業務に反映する努力をしている。	合同会議、運営会議、ユニット会議の中で業務マニュアルの見直しや休憩時間の確保などの意見が出ています。個人面談では目標、課題、自己評価などを聞いています。コロナ禍の対策として会議・研修の人数制限や、動画視聴、オンライン化の意見も取り入れています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	向上心が持てる職場環境の整備に努めている。努力や実績を把握し、公正に評価はされているが、十分な給与還元がされているとは言えない。平成27年9月より『働きやすさ・働きがいのある職場づくりを目指して』各フロアで月間目標をたて取り組み始めた。会議で振り返り、達成度を評価している。	月間目標「感謝の気持ちを言葉で伝える」がフロアのコミュニケーションを活性化し、信頼感や仕事への意欲に繋げています。整理整頓、PDCAサイクル（管理業務継続的な改善法）、職員増員の時間帯設定などで業務を効率化し、介護負担の軽減を図っています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人教育・定期研修・他施設実習を計画に組み込んでいる。数多くの研修を紹介をし、学習する機会の確保に努めている。研修受講のための勤務シフトの調整や費用（交通費、受講料等）の援助を行っている。指導者の人材不足が課題。	顧問講師による研修に全職員が参加しています。外部研修の情報は介護保険事業者連絡会などから情報を収集し適宜、または、希望者が参加しています。現場では介護主任、リーダー、ケアマネジャー、看護師、管理者が共に考え助言・指導しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	例年、月1回の勉強会『湘南かいご道場』を開催。交流を通じることで視野の拡大や学習意欲の向上を促し、継続したネットワークを形成することで質の向上に努めている。地域の介護事業者連絡会に参加することで交流を図っている。同業者との合同介護研究発表会は毎年度3月に開催。コロナ禍のため機会減少。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	不安を解消する為に、ご本人が安心・納得するまで話を聞いている。具体的な安心感を得られるものがある場合は、実行するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居以前から、自宅を訪問してご家族やご本人の現状を把握し、ホームでの生活をイメージできるように説明している。ご家族から要望等をうかがう時間を十分に確保することに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	医師・看護師・ケアマネジャーと連携し、ご本人やご家族が必要としている支援を含めた対応に努めている。必要としているサービスによっては、他の施設の紹介を提案する場合もある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様と会話の時間を多く持てるよう努めている。敬う心を常に持ち、一緒に過しながら喜怒哀楽を共感できるような関係作りを目指している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族と良好な関係を築き、共にご本人の為に支え合っていけるよう努めている。ご家族には、ご本人の様子や状態を逐一伝えている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	ご本人の行きたい場所や会いたい人等の話は、利用者本人とご家族と連絡を取りながら支援に努めている。ご家族の了解を得て、希望に沿うように対応している。入居時、馴染みの家具や衣類を持参していただいている。身寄りのない利用者の支援は、ご本人と面談し、できる限り希望に沿って外出支援をしているが、人員の都合等により十分ではない。	人間関係、習慣、場所は入居前後のアセスメントで本人、家族、ケアマネジャーから把握しています。畑仕事や地域の清掃など生活環境を継続しています。コロナ禍では状況に応じて制限・緩和していますがオンライン面会、電話、手紙、和歌の投稿、墓参りなどで支援に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様の状況に合わせ関わりを支援している。レクリエーション等の参加や、会話の座を取り持つことで、入居者様同士が関われるように取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用の間に培われた関係性を大切に、退去後も必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。気軽に相談していただけるようお伝えしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者本人やご家族に、思いや生活の意向を伺い、把握することに重きを置いている。少しでも希望に添えるように努力している。	利用者の思いや希望を、入居前のアセスメントや面談にて把握し、入居後は日常の会話や態度、さらにケアマネジャーからの情報で把握しています。把握が難しい利用者には、表情などで判断したり、家族に話を聞いて把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	十分なアセスメントをすることで、馴染みの暮らし方を把握し、生活様式を変えない様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その日の状態に応じて、その人ができることをしていただく。無理強いのないよう努めている。ご本人の状態観察をし、経過を把握できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日常の中でご本人や、家族に希望をうかがい、チーム内で必要時に話し合い、意見やアイデアを反映させながらケアプランを作成するようにしている。段階的に見直しをしている。入居前の訪問により状況等を把握し、入居当日までに暫定ケアプランを作成、1ヶ月以内に本プランを作成している。	ケアプランは、アセスメントや面談で把握した状況を基に、自立支援に資することを大切にしています。ケアマネジャーを中心に全介護職員、看護師、協力医の意見を織り込み作成しています。見直しは6ヶ月ごとを基準に行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアやご本人の様子について細かく記載することで、状態変化やケアの方向性が見つけやすくなるように努めている。実施した計画内容を詳しく記載し、把握できるようにしている。毎日の申し送りにより情報の共有をし、短期・長期の目標に向け、自立支援の実現を目指している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	急変時の救急受診の対応や、ご家族では状況説明が困難な場合等は、通院の同行をしている。また、ご本人が希望する外出支援など、柔軟な対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	民生委員やボランティア、警察、消防との協力体制。双方の行事や活動に積極的に参加し交流を図っている。公園等の活用。地域店舗での買い物。入居前の近所付き合い、顔なじみの方との交流を支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	それぞれの身体状況に合わせて、適切な医療を受けられるよう努めている。本人や家族の意向を重視し、従前のかかりつけ医での受診や往診を、継続できるように努めている。かかりつけ医とは密に連絡を取り合う関係を築くようにしている。	事業所の協力医以外に、入居前のかかりつけ医の選択も可能で、5名の人が受診しています。外来受診は家族対応が基本ですが、状況によっては職員が同行しています。受診情報は、看護職員が主となり、家族や医療機関と口頭や電話などで共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	弊事業所の非常勤看護職員と、医療連携体制の支援関係にあり、早期からの医療ニーズの対応に努め、急性期24時間に対応している。報告・連絡・相談の体制は良好に築けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関やご家族と連絡を取り合い状況把握に努めている。適宜、入院先に見舞い、担当者と情報交換・相談をしながら、ご本人・家族の意向に沿った対応に努めている。特に状態の許す限り早期に退院できるように働きかけている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に、重度化や終末期に向けての意向を伺い、弊事業所の方針を十分に説明している。ケアプラン交付時やご本人の状態の変化の度に、今後の方針を話あう機会を設けている。ご本人・ご家族・医師・看護師と連携を密に取り、積極的な支援に取り組んでいる。	契約時に、事業所の対応指針を資料に基づいて説明し、同意を得ています。家族、医師、看護職員と連携を取りながら対応しています。研修と共に看取りについて前向きに捉えられるよう職員のケアをしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	消防署の協力により、普通救命救急講習を弊事業所で年2回実施。他にも講師を招き、社内研修を実施したり、会議等で勉強会を開いている。軽度の処置には対応ができてはいるが、心肺停止などの急変時に、全職員が落ち着いて対応できるか図りかねる。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力を得て年4回の防災訓練を実施。地域には自治会等で呼びかけ協力体制を築いている。併設のデイサービスと合同訓練することにより、協力体制の確認をしている。様々な災害・時間帯を想定し訓練を行うことで、対応の応用力を図っている。東北大震災後、町と連携をとり避難経路等の確認を図っている。	現在、コロナ禍のため、規模や参加者数など、範囲を縮小して実施しています。避難訓練はフロアごとに年4回行っています。自治会や運営推進会議で地域の人との協力を呼びかけています。災害用備蓄品も確保しています。	災害用備蓄品は即座に対応出来るように品名、数量、賞味期限などを記入したリストを作成し、保管管理することが望まれます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者様のプライバシーや尊厳を守る為に、定期的に研修の参加をしている。ご本人の話を傾聴しながら、ご本人が意思決定をできるように声掛けをしたり、話題の提供を行っている。対応は慎重に行っている。	内部及び外部研修により、接遇スキルの向上に努めています。利用者と「視線を合わせ傾聴する。ゆっくりとした口調で話し掛ける」などを大切にしています。穏やかで配慮ある接し方を心掛け支援しています。職員の気付きにくい不適切に繋がる対応にも、相互チェックする事で防ぐよう努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	尊厳を守りながらその都度、入居者様の理解力に合わせた声掛けをするように働きかけている。説明を行い意向を引き出す支援に努め、自己決定していただけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様の希望を聞いて支援している。また、意思表示の困難な利用者には、観察を通して一番良い過ごし方を実施できるよう努めている。時として業務優先となる場面もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	多くの入居者様は、月1回の訪問理美容を利用している。行きつけの理美容等がある方は、家族対応または、職員の付き添いで行かれている。入居前から行きつけの美容院からの出張もある。好きな服を着て頂いている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	好みは様々だが、入居者様の希望をできるだけ反映させるように努めている。咀嚼、嚥下機能に合わせた食事形態（ペースト食、とろみ食等）献立は、マンネリ化しないよう工夫している。ご入居者全員ではないが、積極的に買い物や準備や片付けをしていただいている。	食材調達や献立の一部分は外部委託し、調理など事業所オリジナルの食事を提供しています。コロナ禍のため外食は控えています。行事食や季節食などで食事を楽しむ工夫も取り入れています。皿拭きや皮むきなど役割を持ち、手伝う利用者もいます。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量、水分摂取量の記録をして把握に努めている。状態により必要な介助をし、栄養摂取や水分確保をしている。個別の食習慣やアレルギー等の食制限に対応するように努めている。嚥下等の状態によりペースト食や刻み食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、うがい・歯磨きを実施、入居者の状況に応じて必要な介助を行っている。義歯は、毎日、就寝前洗浄剤に付けて殺菌・消毒をしている。提携の訪問歯科クリニックに、社内研修を年1回、無料検診を年2回実施している。医師の口腔指導により、口腔ケアを実施している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表をつけ、一人ひとりの排泄パターンを把握し、誘導している。できる限り、トイレでの排泄を促すように支援に努めている。プライバシーに配慮し、個々に合った支援を行ない、さりげない観察をして、汚染時には交換できるよう努めている。	排泄の自立に向け、トイレで排泄できるよう支援しています。布パンツ使用者は4名おり、失敗の自信喪失を防ぐため適宜声掛けを行っています。オムツやパッドの使用者は、昼は声掛け、夜もトイレ誘導を行いますが、状況を見て使用の判断をするなど、その人の合った支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	ケアプランに基づいて便秘の予防に取り組んでいる。職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう支援に努めてはいるが、人材不足や現状の勤務割りだと夜間の入浴は厳しく、希望に添えない事はある。状態により入浴が困難な場合は、清拭とベッド上洗髪によって清潔を保っている。	入浴スケジュールは、1日3名、週2回を基本に、希望により2回以上の対応も行っています。入浴時は会話が弾み、利用者の本音も聞けるリラックスできる場所になるよう心掛けています。入浴を嫌がる人には、無理強いせず、清拭などに変更し対応しています。ゆず湯、菖蒲湯なども行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者様の睡眠パターンを把握して、日中の生活が充実できるように努めている。ご本人の意見を尊重し、休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書をカードインデックスにファイルし、容易に確認ができ、理解するように努めている。しかし、全職員が詳細まで把握しているとは言い難い。変化の確認は記録し把握に努めている。必要時に医師・看護師・薬剤師との話し合いをもっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の希望や自立度を見極め、職員と共に家事等を行うようにしている。嗜好品や楽しみごとを提供し、気分転換ができるよう支援することに努めている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的に買い物や散歩や戸外での外気浴ができるよう支援に努めている。ご本人の希望や、時季にあった企画をたて、外出する機会を作るようにしているが、人材不足や現状の勤務割りだと、個人の希望に添えない事は多い。入居者様の重度化やコロナ禍により、以前より外出の機会は減っている。	散歩や外気浴、園芸などを毎日行っています。コロナ禍で外出は減らしていますが、少し足を伸ばした、七夕見学、花見、近隣ドライブなどの年度計画を立て、実施しています。散歩が困難な人には、車いすで外出支援を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理は基本的にホームで行っている。希望者にはご家族と相談し、自己管理でお金を所持して頂くように支援するなど一人ひとりの希望や力量にあわせて支援している。欲しい物がある場合は、一緒に買い物に行く支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自ら自由に電話をすることは難しいが、ご本人から希望があれば、電話や手紙のやり取りの支援をしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	不快や混乱を招かないような環境整備に配慮している。温・湿度計を用いた室温・湿度調整、定期的な換気。催し事・外出時の写真や、季節感ある作品の掲示をしたり、時季の草花を置いたりして、居心地良く過せる工夫をしている。状況に応じた音楽を、音量に配慮し流している。	利用者が長時間を過ごすリビングは、テーブルの配置やエアコンの風が直接当たらない風よけなどを設置し、寛いで過ごせる環境の維持に配慮しています。新型コロナウイルス感染症予防も兼ねて、温湿度管理、換気、距離感などにも気を配っています。トイレ、廊下なども清潔感を保つように清掃しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う入居者様同士で過ごせるよう、職員が間を取り持ったり、リビング内の椅子の配置等を工夫したりしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族やご本人の希望をできる限り受け入れている。使い慣れた家具や身のまわり品の持ち込みをしていただき、入居以前の生活の継続を大切にしている。日常的に、入居者様と一緒に整理整頓に努めている。エアコンフィルター、窓掃除。	備え付け備品はエアコン、照明器具、クローゼットとなっています。そのほか、使い慣れた身の回り品の持ち込みを勧めています。ベッドをレンタルしている人もいます。居室には、個室担当者を決め、居室の清掃や整理整頓を利用者と一緒に行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりや福祉用具を使用し、安全で安心した生活が営む事ができるよう努めている。場所の掲示や表札を貼り、入居者様が理解できるような工夫をしている。		

事業所名	グループホーム悠悠苑 大磯事業所
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	朝礼時に管理者・職員は唱和をし、理念の確認を行っている。会議等で理解し実践できているかの確認をしている。平成24年10月から5ヶ月間かけ全職員参加のもと新しい理念の構築に取り組み、平成25年3月から実施している。課題は、理念を意識した実践をすること、浸透し続けること。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入。例年、双方の行事や活動に積極的に参加し合い、交流を図っている。多種多様な地域ボランティアの協力をいただいている。毎年10月開催の悠遊まつりは、地域の年間計画に予定していただいている。地域店舗での買い物や配達を通し、コミュニケーションを図っている。コロナ禍のため上記ほぼ自粛。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	例年、自治会・運営推進会議・地域行事では、事業内容や認知症の説明・理解を継続的に行っている。民生委員等の見学や、実習の受け入れを積極的に行っている。平成26年度から介護技術の向上を目的に始めた『湘南かいご道場』は、今年度、地域住民を対象にした介護教室等を展開しているが、コロナ禍のため上記ほぼ自粛。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	例年、事業所での取り組みや、現況の開示をし意見交換をしている。参加者の要望・助言等を基に、サービス向上を図っている。災害時の対応は、地域の方の相互協力が必要と考えている為、運営推進会議を活かして話し合っている。コロナ禍のためほぼ自粛。繋がりは減少している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	例年、変更・事故等の報告。徘徊や感染症等の解決困難な事例や、不明点を相談し、助言を求めている。社会資源を活用するにあたり、資料や情報を早期に収集し、資源相互間の調整を図るよう努めている。実地指導の指摘内容を改善し、質の向上に努めている。市町村が実施する研修に積極的に参加をしている。運営推進会議において、助言・指導をいただいている。コロナ禍のためほぼ自粛。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての研修を受講することや、職員同士で共有することで拘束のないケアに取り組んでいる。身体拘束がもたらす身体的・精神的・社会的弊害を正しく認識し、入居者の問題点をしっかり把握することに努めている。玄関等の施錠はせず自由に行き来できる環境にある。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	内・外部研修やカンファレンスで学習し、防止に努めている。日常的に職員間で都度注意を払うように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	講師を招き、社内研修を実施している。最近では、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度を必要とする入居者様や問い合わせが増えてきたので、継続して研修の機会をもちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	事業内容や方針等を十分に説明した上で、契約内容を分かり易く丁寧に説明をするようにしている。不安や疑問点を解消し、理解・納得された後、入所されている。解約・改定時も同様である。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	気軽に意見等が言える環境・関係作りに努めている。苦情窓口や意見箱を設置し、運営に反映させている。代理人の面会時等に、個別に現状の報告をしたり、意見や要望を訊いたりしている。検討事案は、会議で検討し業務改善に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な会議や日常のカンファレンスの中で機会を設けている。職員との個別面談を必要時実施している。問題点を把握し業務に反映する努力をしている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	向上心が持てる職場環境の整備に努めている。努力や実績を把握し、公正に評価はされているが、十分な給与還元がされているとは言えない。平成27年9月より『働きやすさ・働きがいのある職場づくりを目指して』各フロアで月間目標をたて取り組み始めた。会議で振り返り、達成度を評価している。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人教育・定期研修・他施設実習を計画に組み込んでいる。数多くの研修を紹介をし、学習する機会の確保に努めている。研修受講のための勤務シフトの調整や費用（交通費、受講料等）の援助を行っている。指導者の人材不足が課題。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	例年、月1回の勉強会『湘南かいご道場』を開催。交流を通じることで視野の拡大や学習意欲の向上を促し、継続したネットワークを形成することで質の向上に努めている。地域の介護事業者連絡会に参加することで交流を図っている。同業者との合同介護研究発表会は毎年度3月に開催。コロナ禍のため機会減少。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	不安を解消する為に、ご本人が安心・納得するまで話を聞いている。具体的な安心感を得られるものがある場合は、実行するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居以前から、自宅を訪問してご家族やご本人の現状を把握し、ホームでの生活をイメージできるように説明している。ご家族から要望等がうかがう時間を十分に確保することに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	医師・看護師・ケアマネージャーと連携し、ご本人やご家族が必要としている支援を含めた対応に努めている。必要としているサービスによっては、他の施設の紹介を提案する場合もある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様と会話の時間を多く持てるよう努めている。敬う心を常に持ち、一緒に過しながら喜怒哀楽を共感できるような関係作りを目指している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族と良好な関係を築き、共にご本人の為に支え合っていけるよう努めている。ご家族には、ご本人の様子や状態を逐一伝えている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人の行きたい場所や会いたい人等の話は、利用者本人とご家族と連絡を取りながら支援に努めている。ご家族の了解を得て、希望に沿うように対応している。入居時、馴染みの家具や衣類を持参していただいている。身寄りのない利用者の支援は、ご本人と面談し、できる限り希望に沿って外出支援をしているが、人員の都合等により十分ではない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様の状況に合わせ関わりを支援している。レクリエーション等の参加や、会話の座を取り持つことで、入居者様同士が関われるように取り組んでいる。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用の間に培われた関係性を大切に、退去後も必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。気軽に相談していただけるようにお伝いしている。			
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者本人やご家族に、思いや生活の意向を伺い、把握することに重きを置いている。少しでも希望に添えるように努力している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	十分なアセスメントをすることで、馴染みの暮らし方を把握し、生活様式を変えない様に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その日の状態に応じて、その人ができることをしていただく。無理強いのないよう努めている。ご本人の状態観察をし、経過を把握できるようにしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日常の中でご本人や、家族に希望をうかがい、チーム内で必要時に話し合い、意見やアイデアを反映させながらケアプランを作成するようにしている。段階的に見直しをしている。入居前の訪問により状況等を把握し、入居当日までに暫定ケアプランを作成、1ヶ月以内に本プランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアやご本人の様子について細かく記載することで、状態変化やケアの方向性を見つけやすくなるように努めている。実施した計画内容を詳しく記載し、把握できるようにしている。毎日の申し送りにより情報の共有をし、短期・長期の目標に向け、自立支援の実現を目指している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	急変時の救急受診の対応や、ご家族では状況説明が困難な場合等は、通院の同行をしている。また、ご本人が希望する外出支援など、柔軟な対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	民生委員やボランティア、警察、消防との協働体制。双方の行事や活動に積極的に参加し交流を図っている。公園等の活用。地域店舗での買い物。入居前の近所付き合い、顔なじみの方との交流を支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	それぞれの身体状況に合わせて、適切な医療を受けられるよう努めている。本人や家族の意向を重視し、従前のかかりつけ医での受診や往診を、継続できるように努めている。かかりつけ医とは密に連絡を取り合う関係を築くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	弊事業所の非常勤看護職員と、医療連携体制の支援関係にあり、早期からの医療ニーズの対応に努め、急性期24時間に対応している。報告・連絡・相談の体制は良好に築けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関やご家族と連絡を取り合い状況把握に努めている。適宜、入院先に見舞い、担当者と情報交換・相談をしながら、ご本人・家族の意向に沿った対応に努めている。特に状態の許す限り早期に退院できるように働きかけている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に、重度化や終末期に向けての意向を伺い、弊事業所の方針を十分に説明している。ケアプラン交付時やご本人の状態の変化の度に、今後の方針を話あう機会を設けている。ご本人・ご家族・医師・看護師と連携を密に取り、積極的な支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	消防署の協力により、普通救命救急講習を弊事業所で年2回実施。他にも講師を招き、社内研修を実施したり、会議等で勉強会を開いている。軽度の処置には対応ができてはいるが、心肺停止などの急変時に、全職員が落ち着いて対応できるか図りかねる。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力を得て年4回の防災訓練を実施。地域には自治会等で呼びかけ協力体制を築いている。併設のデイサービスと合同訓練することにより、協力体制の確認をしている。様々な災害・時間帯を想定し訓練を行うことで、対応の応用力を図っている。東北大震災後、町と連携をとり避難経路等の確認を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者様のプライバシーや尊厳を守る為に、定期的に研修の参加をしている。ご本人の話を傾聴しながら、ご本人が意思決定をできるように声掛けをしたり、話題の提供を行っている。対応は慎重に行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	尊厳を守りながらその都度、入居者様の理解力に合わせた声掛けをするように働きかけている。説明を行い意向を引き出す支援に努め、自己決定していただけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様の希望を聞いて支援している。また、意思表示の困難な利用者には、観察を通して一番良い過ごし方を実施できるよう努めている。時として業務優先となる場面もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	多くの入居者様は、月1回の訪問理美容を利用している。行きつけの理美容等がある方は、家族対応または、職員の付き添いで行かれている。入居前から行きつけの美容院からの出張もある。好きな服を着て頂いている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	好みは様々だが、入居者様の希望をできるだけ反映させるように努めている。咀嚼、嚥下機能に合わせた食事形態（ペースト食、とろみ食等）献立は、マンネリ化しないよう工夫している。ご入居者全員ではないが、積極的に買い物や準備や片付けをしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量、水分摂取量の記録をして把握に努めている。状態により必要な介助をし、栄養摂取や水分確保をしている。個別の食習慣やアレルギー等の食制限に対応するように努めている。嚥下等の状態によりペースト食や刻み食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、うがい・歯磨きを実施、入居者の状況に応じて必要な介助を行っている。義歯は、毎日、就寝前洗浄剤に付けて殺菌・消毒をしている。提携の訪問歯科クリニックに、社内研修を年1回、無料検診を年2回実施している。医師の口腔指導により、口腔ケアを実施している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表をつけ、一人ひとりの排泄パターンを把握し、誘導している。できる限り、トイレでの排泄を促すように支援に努めている。プライバシーに配慮し、個々に合った支援を行ない、さりげない観察をして、汚染時には交換できるよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	ケアプランに基づいて便秘の予防に取り組んでいる。職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう支援に努めているが、人材不足や現状の勤務割りだと夜間の入浴は厳しく、希望に添えない事はある。状態により入浴が困難な場合は、清拭とベッド上洗髪によって清潔を保っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者様の睡眠パターンを把握して、日中の生活が充実できるように努めている。ご本人の意見を尊重し、休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書をカードインデックスにファイルし、容易に確認ができ、理解するように努めている。しかし、全職員が詳細まで把握しているとは言い難い。変化の確認は記録し把握に努めている。必要時に医師・看護師・薬剤師との話し合いをもっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の希望や自立度を見極め、職員と共に家事等を行うようにしている。嗜好品や楽しみごとを提供し、気分転換ができるよう支援することに努めている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的に買い物や散歩や戸外での外気浴ができるよう支援に努めている。ご本人の希望や、時季にあった企画をたて、外出する機会を作るようにしているが、人材不足や現状の勤務割りだと、個人の希望に添えない事は多い。入居者様の重度化やコロナ禍により、以前より外出の機会は減っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理は基本的にホームで行っている。希望者にはご家族と相談し、自己管理でお金を所持して頂くように支援するなど一人ひとりの希望や力量にあわせて支援している。欲しい物がある場合は、一緒に買い物に行く支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自ら自由に電話をすることは難しいが、ご本人から希望があれば、電話や手紙のやり取りの支援をしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	不快や混乱を招かないような環境整備に配慮している。温・湿度計を用いた室温・湿度調整、定期的な換気。催し事・外出時の写真や、季節感ある作品の掲示をしたり、時季の草花を置いたりして、居心地良く過せる工夫をしている。状況に応じた音楽を、音量に配慮し流している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う入居者様同士で過ごせるよう、職員が間を取り持ったり、リビング内の椅子の配置等を工夫したりしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族やご本人の希望をできる限り受け入れている。使い慣れた家具や身のまわり品の持ち込みをしていただき、入居以前の生活の継続を大切にしている。日常的に、入居者様と一緒に整理整頓に努めている。エアコンフィルター、窓掃除。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりや福祉用具を使用し、安全で安心した生活が営む事ができるよう努めている。場所の掲示や表札を貼り、入居者様が理解できるような工夫をしている。		

2021年度

事業所名 グループホーム悠悠苑 大磯事業所

作成日： 2022年 5月 10日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	職員の何気ない言動により、入居されている方の身体的または精神的な行動を抑制してしまうことがある。	入居者様が、その人らしい主体的で自由な生活を送るためスピーチロックを0にする。スピーチロック(言葉による拘束)とは？不適切なケアの共通認識をもつ。不適切な言葉や行為を、お互いに注意できるような職場環境をつくる。	スピーチロック0を目指し各フロアで月間目標を検討し、虐待防止に広げて話し合う。職員同士で疲労やストレスがケアに影響していないかを確認し、フォローし合うように努める。適切なケアが行われていない場合は、面談で解決を図る。毎月、定例会議で振り返り、達成度を評価して、翌月の重点方針、目標数を立てる。月末に個人で、課題ごとに、フロアで言葉がなくなっているかを評価し、数値化する。	12ヶ月
2	35	備蓄品・防災用品等が一覧にまとめられておらず、定期的な内容点検が十分ではない。	災害用備蓄品は、即座に対応できるように品名、数量、賞味期限などを記入したリストを作成し、保管管理することを目標とする。	備蓄品・防災用品の点検をおこないやすくするために、一覧表を作成し、定期点検の記録を残す。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月